

2026年の神美クイズは「知っとこ！神美」にヒントがあります 今後も使用するので保存しておいてね！

振興部の

知っとこ！神美 2026年2月号

知っておいてほしい神美を紹介します。

たちばなの郷
神美裏路地探検

倉見

ミツバツツジが咲く春を感じながら歩く 天日槍伝説と安倍晴明伝説の里

1. 小出陣屋

倉見陣屋(豊岡市倉見字石谷)は小野川右岸、倉見集落北側の山裾、2つの尾根に囲まれた標高10.9mの谷部に立地する。絵図などが残されていないため、その範囲は明らかではないが、現在の遺構から判断すると東西約100m・南北約100mほどであろう。

寛文6年(1666年)第4代出石城主小出吉英(5万石)の死後、その遺領を長男吉重が45,000石で継ぎ、残る5,000石を3人の弟に分封した。即ち、二男英本に出石郡2,000(倉見小出家)、三男英信に養父郡2,000石(大藪小出家)、四男英勝に気多郡1,000石(山本小出家)が与えられ、旗本の小出3家が成立した。

倉見小出家の祖である英本の所領として、倉見・長谷(豊岡市)、三原・東里・日向・西野々・高竜寺・畑山・赤花の一部(但東町)が与えられ、倉见到陣屋を設けた。陣屋は初め「字中地の古屋」であったが、享和3年(1803年)「字石谷」に移転した。倉見小出家は、幕末まで存続した。(※豊岡市の城郭集成Iより)平成20年7月28日豊岡市指定史跡に指定された。



小出陣屋跡

2. 倉楽園

昭和47年倉見老人会により国知神社裏山に三つ葉つつじの名所として開かれる。毎年区民総出の懇親会の花見が催されて現在に至る。残念なことに鹿の食害で往年の賑わしさはない。



倉楽園

3. 国知神社

●祭神 天国知彦命 <アマノクニシラスヒコノミコト>

●由緒 人皇1代神武天皇は、御出石櫛甕玉命の子・天国知彦命を以って、御出石県主と為し給う。人皇6代孝安天皇53年新羅王子天日槍帰化す。(中略) 人皇10代崇神天皇(紀元前148~紀元前29年?)天国知彦命の子孫此地に居住し崇神天皇6年3月当社を創立して其祖を奉斎せりと伝ふ。明應10年(1501年)社殿を再建し寛文6年(1666年)小出龜之丞此地を領してより代々小出氏の崇敬を受け文化8年(1811年)社殿を改築せり。明治初年(1868年)神社調査に際し祭神不詳とせしも諸書により天国知彦命を祀れる事を知る。明治6年(1873年)10月村社に列せらる。境内には県天然記念物の大櫓があったが今は伐採されその一部と表示物が残されている。とにかく祭神が古いことは確からしい。



国知神社

4. 権現谷(宝勝禅寺)

昔宝勝禅寺があった。陰陽道卜筮で有名な安倍晴明が寓居しその道の法を以て一間四方蚊蠅を封じたところとつたえられている。

5. 宝勝寺

清明山 宝勝寺 山名時義の子時熙の時代(1400年)長谷の大安寺、倉見の宝勝寺、森尾の盛重寺が建つた。開基はいずれも大機禪師。竹野須谷の円通寺の末寺宝勝寺古跡(権現谷)は往昔安倍晴明がきて小庵を結んだところと伝え、廃れていたのを応永2年(1395年)大機が再興し清明の為に香火院を建て、清明山宝勝寺と号したという。



宝勝寺

6. 船戸(舟山)

昔、天日槍が船をこの付近につないだと称され現在字名を船戸と言っている。

7. 大本教但州別院跡

《説明等》「金舟埋もれり」の伝説もある丘に、大本教の但州別院2棟(鶴遊殿、鶴鳴殿)があった。昭和10年第二次大本事件で、政府の命により大きな歌碑2基とともに建物一切取り払われた。鶴鳴殿は城崎の蓮成寺の本殿に、鶴遊殿は出石の民家になっている



大本教但州別院跡